

ノーマライゼーション を考えるシリーズ 全3巻

知的障害者

— 自立という選択 —

22分 [C#3432]



身体障害者

— 社会に向けて自分を発信する —

22分 [C#3433]



精神障害者

— 歪んだイメージを問い直す —

22分 [C#3434]



各巻 69,300円(本体 66,000円)

3巻セット 189,000円(本体180,000円)
[C#3431]

※各巻、字幕入り版あり



東映株式会社 教育映像部

〒104-8108 東京都中央区銀座3-2-17
<http://www.toei.co.jp/edu/>

VIDEO

企画意図

障害者を取りまく状況が変わりつつある。知的障害者は施設から出て町で暮らし始めた。社会の一員として自己主張の声をあげ始める身体障害者もいる。精神病院に長期入院していた精神障害者たちは町に出て暮らし始めている。こうした障害者たちや、彼らを取りまく人びとの姿を追い、障害者の自立とノーマライゼーションの「いま」を考える。

知的障害者 —自立という選択—

知的障害者の入所施設「恩方育成園」に暮らす津田ともいさんと原納洋介さん。二人は、自立訓練棟と呼ばれる一軒家で日常生活の訓練を受けている。職員と一緒に買い物に行くのも訓練のひとつ。知的障害者の自立の大きな壁はお金の管理なのだ。

知的障害者の自立施設、グループホームは、仕事をもつ障害者が家賃や食費を払いながら生活する施設。グループホーム「スマレの家」に入っている高橋敬子さんは、食事やお金の出し入れのサポートを受けながら生活している。高橋さんは自らの希望で仕事を持ち、グループホームに入った。

通勤寮は、働きながら自立を目指す人のための入所施設。立川通勤寮に住む俵由紀絵さんは、企業の社員食堂で食器洗浄などの仕事をしている。彼女の仕事ぶりを見守るのが、施設の依頼を受けたジョブコーチ。障害者への仕事のアドバイス、雇用側と障害者の橋渡しの役割を持つ。このようなサポートが、知的障害者のノーマライゼーションに求められている。

通勤寮で知り合い結婚したのは、ともに知的障害を持つ会田年明さんと美代子さん。幸せな日々を送りつつも、美代子さんの無駄使いが悩みの種だ。お金の管理は知的障害者の永遠の課題なのかもしれない。

知的障害者たちがいくつものハードルを越えようとしている。

身体障害者 —社会に向けて自分を発信する—

障害者にとって就労は大きな問題である。PCC葛飾では、身体障害者向けのコンピューター技術講習を行っている。代表の竹場正巳さんは、5年前に事故で障害者になったが、独学でコンピューター技術を習得。生活の糧を得られるまでになった。

アクセスインターナショナルの山崎泰広さんは、留学先のアメリカで事故に遭い下半身不随になり、リハビリしながら大学を卒業したのち帰国した。日本の福祉機器のレベルの低さに驚いた山崎さんは、福祉機器を輸入販売する会社を設立。今年年商10億、従業員40名を数える会社に成長した。

身体障害者による劇団「暁座」は結成10年を迎えた。座長の金子弘子さんは四肢形成異常の障害を持つ。NPO職員でもある金子さんが、障害も個性だと気づいたきっかけは芝居だった。劇団「暁座」は障害者という垣根が取り払われた場所なのだ。

荒川やさしい街づくりの会の高見和幸さんは、手足の不

自由な自分の日常を見てもらうため、サポートを体験するボランティアを募集した。参加した大学生たちにとって、食事の介助や車椅子からベッドへの移動は想像以上の重労働だ。障害者がどう暮らし、何を求めているのかを直に感じる事が大切なのだ。

劇団「暁座」の稽古場。演出を受け持つ市川さんは、両目が不自由な松林信介さんにも厳しい演技指導を行う。自身も右目に障害を持つ市川さんは、実は松林さんの介護を受け持つ介護福祉士。市川さんは、松林さんが本当に困ったときしか手を差し伸べない。食事の時は、ただやさしく見守るだけだ。それはノーマライゼーションのあるべき距離に見えた。

さまざまな障害者たちが、自らのやり方で、ノーマライゼーションを目指している。

精神障害者 —歪んだイメージを問い直す—

精神障害者の7割を占めるといわれる統合失調症の辰村泰治さんは精神障害者に対する間違った認識を改めてもらおうと、トークショーなどの啓発活動を行っている。現在、辰村さんは宅配弁当の会社で働いているが、38歳から23年間、精神病院に入院していた。6年前に国の政策が変わり退院。その後、今の活動を始めた。統合失調症は完治しないが、薬を飲んでいれば日常生活をほぼ問題なく送ることができるという。

日本の精神医療の草分け的存在である浅井病院。精神科医の儘田医師が現況を語る。いま厚生労働省は約7万人の社会的入院患者を地域に返そうとしている。だが問題は、精神障害者たちがどこで暮らし、どこで働くのかということだ。

統合失調症の只隅光人さんが勤める清掃会社には、同じ障害を持つ人が約20名いる。会社設立者の金子鮎子さんは、精神障害者たちの仕事ぶりに不安はないと語る。

統合失調症とうつ病を抱える「こらーるたいとう」の加藤真規子さんは、精神障害者の支援活動を行っている。病氣と戦う自らの経験の中で、精神障害者同士が支え合うピアサポートにたどり着いた。現在、精神障害者の家を訪問し、当事者にしか分からない悩みを聞き、励まし合う活動も行っている。

精神障害者に対する歪んだイメージをなくすために、当事者たちが、さまざまな行動を起こしている。

企画・制作・・・東映株式会社 教育映像部

2004年作品

d.

関東営業推進室 東京都中央区銀座3-2-17 〒104-8108 ☎03-3535-3631
関西営業推進室 大阪市北区梅田1-12-6 〒530-0001 ☎06-6345-9026
広島出張所 広島市中区八丁堀16-10 〒730-0013 ☎082-511-2066
高松出張所 高松市本町11-7 〒760-0032 ☎087-851-3766
福岡出張所 福岡市博多区中洲4-3-18 〒810-0801 ☎092-262-3101

●お買い上げは……

(株)オプチカル 販売課 教育映像係
香川県高松市屋島西町2484-8
TEL 087-841-1100
FAX 087-841-1101